

「タンチョウの生息地分散と地域振興について考えるシンポジウム」開催結果

タンチョウとの共生と地域振興について考えることを目的に、世界中でツル類の保護に尽力されているアーチボルド博士やタンチョウの飛来が増えつつある道央の地域の方を講演者に迎えてシンポジウムを開催しました。

【開催概要】

日時 平成31年1月22日（火）13:00~16:15
主催 環境省北海道地方環境事務所
共催 苫小牧市
参加者 130名

■環境省からの報告

- タンチョウ保護増殖事業の取組（釧路自然環境事務所）
- 道央地域での生息地分散について（北海道地方環境事務所）

これまでの保護増殖事業や分散化の経過を報告。また、分散した地域については自主的な取組を支援していく方針を表明。



■特別講演

「海外旅行者からみたタンチョウの魅力」
国際ツル財団 Dr. George W. Archibald

- ・ ツルを目的とした観光や農業の付加価値化による、ツルの保護と経済活動の両立に関する取組を紹介、提案。
- ・ 日本において一度は激減したタンチョウの個体数が回復したことは素晴らしい成果であり、海外からの旅行者にとっても魅力的な生きものである。



■地域の事例紹介

- タンチョウも住めるまちづくりについて
舞鶴遊水地への飛来をきっかけとした町内での取組について
（長沼町政策推進課 横山氏）
- むかわタンチョウ見守り隊の取組
町内での繁殖をきっかけとした見守り活動について
（ネイチャー研究会inむかわ 小山内会長）
- 人間環境都市・苫小牧の目指す自然との共生
タンチョウとの共生に向けた、市民や周辺地域、関係機関との今後の連携協力への考えについて
（苫小牧市環境衛生部 椿部長）

